

授業研究部(中学校)10月例会

10月18日(水)昭和橋中学校において、同校の 田部 翔理 先生を講師にお迎えし、国語科の授業における「読むことの授業」についてお話をいただきました。

1. 「説明文の授業」について

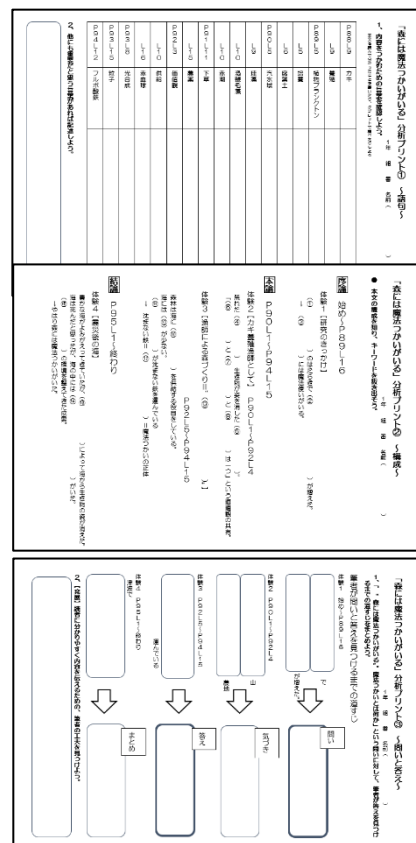
以下の3点を意識して準備する。

- (1) 名古屋市の教員として
名古屋市の授業づくりの重点として、「なかまなビジョン」が挙げられている。「なかまなビジョン」には、学習課題、言語活動、なかまとの対話など、現在求められている授業の基本的な形が示されているので、授業づくりの際に参考にする。
- (2) 基本的読解の観点から
「名古屋国語教育研究会読むこと部会(中学校)」から出されている、「Basic 7 (別添資料①)」をイメージする。
- (3) 自由進度学習の観点から
教材や生徒の実態に合わせて、「三つの型(別添資料②)」を指導者が選択する。

2. 授業の実際について

田部先生が実際に行った「森には魔法使いがいる 畠山重篤(教育出版)」の「自由進度学習の授業」について、紹介していただきました。(7時間完了)

- (1) 初めの時間(1時間)
単元の目標の確認をした後、範読を行う。ポイントの確認をし「学習計画・ふりかえりシート」を配布し、学習計画を立てる。
- (2) 自由進度学習「時間設定型」(2~4時間)
生徒が自分で学習にかける時間を設定する。
2時間目…分析プリント①を用いて「語釈読み」をはかる。
3時間目…分析プリント②を用いて「手繰り読み」、「リンク読み」をはかる。
4時間目…分析プリント③を用いて「リンク読み」、「論理読み」をはかる。
※ 2~4時間目の終わりに、現在の自分の進捗と疑問を話し、周囲と共有する。その後「ふりかえり」と「次の計画」を記入する。
- (3) プリントへの記述を元にした確認、意見交流(5~6時間)
「分析プリント②③」の内容を、板書しながら全体で確認した後、教師側から、発問し意見を交流させる。
- (4) 表現活動・ふりかえり(7時間)
生徒たちに、筆者が行っている「読者に分かりやすく内容を伝える工夫」を挙げさせ、その工夫を生徒自身に活用させ、表現プリントに記入させる。



分析プリント①②③

自由進度学習での評価について、その観点や評価の方法などについても、より詳しく話していただきました。

今後も、日ごろ先生方が感じている疑問や悩みを解決できる**授業研究部**でありたいと考えています。もし、授業研究部(中学校)で扱ってほしい教材や分野があれば下記までお知らせください。よろしくお祈いします。

○ 問い合わせ先: 大森中学校 熊谷

[Tel:798-2900](tel:798-2900) FAX:799-0465 E-mail:kumagail3@nagoya-c.ed.jp

※ スズキ校務のメッセージでも構いません

Basic7

国語で表現された内容や事柄を正確に理解するため、以下の7つの視点を意識して読むことをBasic7 (Basic reading comprehension from 7 points of view:7つの視点からの基本的読解)と呼ぶ。無意識的・感覚的に行ってきた読みを自覚的・分析的に行えるようにするためのものであるが、日常の文章読解にも応用できるようにするため、視点は細分化せず、これまでの実践を整理し、七つとした。各視点を区別することは重視しない。

① 語釈読み	<p><u>語句の定義</u>を捉えて読む。国語辞典を活用したり同義語との比較をしたりしながら、その表現から読み取れることは何かを考える。また、文章中で重要な働きをしている語句の意味を他の言葉で言い換え・説明し、その文章におけるその語句の定義を捉える。語彙力の深化・拡充は自らの世界の深化・拡充になるという意識をもたせたい。</p>
② 文法読み	<p><u>文法の知識</u>を活用して読む。読み誤りが想定される文や、課題に深く関わる文について主語・述語の関係や修飾・被修飾の関係を確認したり、助詞、助動詞、接続詞の働きや、通常どのような状況で使われているかを確認したりする。</p>
③ たぐり読み	<p><u>連続する前後のつながり</u>を確かめながら文脈に沿って読む(接続語によって内容がどのように展開しているのか、指示語は何を指しているか、呼称はどのように変化しているか、など)。説明的文章であれば筆者の思考の道筋や説明のための工夫を踏まえた上で内容を理解し、文学的文章であれば作品の世界観を徐々に作り上げる。冒頭から終末へ、書かれていること(点)をつなぎながら中心となる筋(線)をたぐっていくイメージ。</p>
④ リンク読み	<p>段落・場面ごとの内容を簡潔な言葉で整理したり、複数の段落・場面にわたって書かれていることからの因果関係を確認したりして、<u>離れて書かれている事柄やBasic7の他の視点で読み取ってきたことがらとつなぎ合わせて読む</u>。これにより、全体を意識し、部分と部分の関係や全体と部分との関係を踏まえて読もうとする意識をもつ。読み取った内容を、整合性を図りながらリンクさせていき、点を面へ、さらに立体へと広げ、膨らませていくイメージ。</p>
⑤ レトリック読み	<p>倒置法や体言止め、擬態語・擬声語などの表現技法、漢語調や翻訳調などの文体、文末表現など、<u>表現上の特徴を確認し、その効果を考え、書かれている内容のイメージを膨らませて読む</u>。</p>
⑥ 論理読み	<p>主に説明的文章において、<u>筆者の意見とその根拠</u>としている事実との照応について整理し、<u>根拠の確からしさや理由付け、取り上げられている事例の妥当性などを検討し、書き手の論理</u>を読む。また、図や表が取り入れられている場合には、その図や表からどんなことが読み取れ、文章中のどの意見の根拠となっているかを確認する。</p>
⑦ 仕組み読み	<p>主に文学的文章において、<u>作品の仕組み・構造</u>を読む。設定(時代、季節、場所、登場人物の置かれている状況など)を確認する。また、作品が「語り手によって語られている」という視点をもつことは、登場人物の視点で作品世界に浸り、異なる人生を疑似体験するだけでなく、新たな気付きを獲得し、考えを深めることにつながる。そこで、その文章は、「だれが」「何を」「どのような語り方を」しているか(時には、「何を語っていないか」)を確認し、作品の仕組み・構造について考える。</p>

以上の読みにより、文章の正確な理解ができるようになるだけでなく、その積み重ねは、それまでの自己の言葉に対する理解を深めたり、言葉によって新たな世界が広がる経験をさせたりすることになり、「言葉による見方・考え方」を磨くことになる。また、一つ一つの表現を丁寧に読む、構成、文法、呼称や語り手、視点を手がかりに読むなどの「読み方」を経験させることにもなる。

(読むこと部会「読むこと」の授業構想における基本的な考え方より抜粋・変更)

自由進度学習の「三つの型」

単元の学習内容に合わせて、教師が型を選択しましょう！

単元の学習内容と、子どもたちの「興味・関心」「学習のペース」「習熟度」の差を基に、子どもたちが何を「選択」できるようにするかを考えます。

興味・関心に対応

課題選択型

課題A

課題B

課題C

・興味・関心や自身の立てた問いなどに対応し、子どもが課題を選択できるようにする。

全ての課題に取り組み、取り組む順を選択する場合と、いくつかの課題のみ選択して取り組む場合がある。

まず、この課題に取り組もう。

学習のペースに対応

時間設定型

活動A

活動B

活動C

・学習のペースに対応し、子どもがそれぞれの学習活動に掛ける時間を設定できるようにする。

重点的に取り組みたい活動を明らかにして計画を立てたり、一つの活動で身に付けるべき内容の習得を確認して、次の活動に移ったりする。

前転の練習に時間を掛けよう。

習熟度に対応

目標設定型

my目標

my目標

・習熟度に対応し、子どもが学習に取り組む目標を設定できるようにする。

目標を達成するために必要な課題や学習活動に取り組むことで、基本的な学習内容の定着を図るとともに、習熟度に応じ、資質・能力を高められるようにする。

自分の目標は…
達成するためには…。

部会の様子